学校番号	1208

令和　３　年度　　指導と評価の年間計画

教科	科目（講座名）	単位数	指導学年	履修の条件
地理歴史	地理Ａ	２	３	なし

使用教科書	副読本等
帝国書院　高等学校　新地理Ａ	なし

準備物・費用等	必修／選択	全員履修	セット	自由選択	授業形態	講義	実技	実習
必要があればその都度連絡		選択				○		

１．担当者からのメッセージ（学習方法等）

・地理の基礎的な内容について学習し、理解する。
・定期試験、授業中の取り組み姿勢、ノートやプリントなどの提出物を総合的に判断して成績を出します。
・担当の先生の話を落ち着いて聞くことがすごく重要です。

２．学習の到達目標

日本及び世界の生活や文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に行き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	ａ：関心・意欲・態度	ｂ：思考・判断・表現	ｃ：資料活用の技能	ｄ：知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的現象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や脚気を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	・授業ノート ・授業態度	・授業ノート ・観察等 ・定期考査	・プリント ・観察等 ・定期考査	・定期考査 ・授業プリント

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 ～ 5月 中旬	１章　地球儀や地図からとらえる現代世界 １節　地球上の位置と国家 ２節　グローバル化が進む世界 ２章　人間生活を取り巻く環境	球体としての地球 日本の位置とひろがり 観光・経済・貿易・交通・情報によるつ	○	○ ○		○	a.日本だけではなく、世界の一員として自覚をもつことができたか。 b.地球を球体としてとらえ、世界的な視点で物事を考えられるか。 d,国同士の結びつきから、日本がおかれている状態を理解できるか。	授業態度 提出物
5月 下旬 ～ 7月	１節　人々の生活と地形 ２節　人々の生活と気候 ３節　人々の生活と産業	さまざまな地形 気候の地域性と気候区分 世界の農業・工業・商業・サービス業		○ ○	○ ○	○	b.地形の形成過程を理解し、これからの変化について考察できるか。 c.気候の違いや地域での違いを資料等を活用し理解する。 d.世界の産業と自分自身の生活の影響を理解する。	授業態度 提出物 定期考査
8月 下旬 ～ 10月 上旬	３章　世界の諸地域の生活・文化 １節　中国の生活・文化 ３節　東南アジアの生活・文化 ５節　中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 ７節　ヨーロッパの生活・文化 ９節　アングロアメリカの生活・文化 １０節　ラテンアメリカの生活・文化	アジア アフリカ ヨーロッパ アメリカ オセアニア		○		○	b.日本と世界各地の違いを見つけ出し、考察する。 d,各国の生活や文化を理解する。	授業態度 提出物 定期考査
10月 中旬 ～ 12月	４章　地球的課題と私たち １節　複雑にからみ合う地球的課題 ２節　世界の環境問題 ３節　世界の資源・エネルギー問題 ４章　世界の人口問題	エネルギー資源の現状と課題 食料不足 発展途上国・先進国の問題 人口増加 国境をこえる環境問題	○	○	○	○	a.人口変化についてそれぞれの課題を理解する。 b.課題解決のための方策を考察する。 c.立場の違いを理解し、解決策を考える。 d,自分自身の生活にあてはめ、問題点を理解する。	授業態度 提出物 定期考査
1月 ～ 2月	２部身近な地域の課題 １章　身近にあるさまざまな地図 ２章　日本の自然環境と防災	地理空間情報とGPS・GISの利用 日本の地形・気候の特徴 地域的課題の発見	○	○		○	a.さまざまな地図の特性を理解し、必要に応じたものを選択できるか。 b.日本の地形・気候の特徴を理解し、防災について考察する。 d.課題発見から解決策の提案までを主体的に行えるか。	授業態度 提出物 定期考査